

1. 科目名 (単位数)	心理検査法演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3354						
2. 授業担当教員	財満 鎮人								
4. 授業形態	演習およびグループワーク	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「心理的アセスメント/心理検査法」と併せて履修することが望ましい。								
7. 講義概要	心理臨床の現場でよく使用されている主な質問紙法検査や投影法検査等の理論、実施方法、結果の解釈について学習する。自らが心理検査の実施者と被検者の役割をとることによって、心理検査の目的、特徴、有効性や限界について体験的に学ぶとともに、他のアセスメント方法とも合わせて総合的に事例を理解できるようになることを目指す。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の種類・特徴および長所・短所を理解し、説明できるようになる。 2. 心理検査の実際を体験的に学び、使用できるようになる。 3. 心理検査の結果からのアセスメントができるようになる。 4. 心理検査における心理臨床の倫理について理解し、説明できるようになる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・各実習で行った心理検査について結果をレポートにして提出する (A4用紙1枚)。								
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 澤田丞司著『心理検査の実際 改訂版』新興医学出版社、2004。 土川隆史他編『ロールシャッハ法解説』名古屋ロールシャッハ研究会、2011。 【教材】 随時資料を用意し活用する。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に熱心に取り組み、積極的に発言・発表をしたか。 2. レポートは、演習・検査を踏まえて、要点を分かりやすくまとめる力がついたか。 ○評定の方法 <table border="0"> <tr> <td>1. 受講態度・参加姿勢</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>2. 実施した演習 (心理検査) ごとのレポート</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>3. 科目終了レポート</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> </table>			1. 受講態度・参加姿勢	総合点の 30%	2. 実施した演習 (心理検査) ごとのレポート	総合点の 40%	3. 科目終了レポート	総合点の 30%
1. 受講態度・参加姿勢	総合点の 30%								
2. 実施した演習 (心理検査) ごとのレポート	総合点の 40%								
3. 科目終了レポート	総合点の 30%								
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の深層心理を知る手がかりのさわりには是非触れてほしい。病院臨床だけでなく、スクールカウンセラーなどの教育臨床であっても、将来必ず役に立つはずである。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・演習を中心に授業が展開するので、主体的・積極的に取り組むこと。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 								
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	・オリエンテーション (心理検査の概要)	事前学習	心理検査の概要の予習をしてくる。						
		事後学習	興味をもった検査について参考書などで調べて理解した内容をノートにまとめる。						
第 2 回	・YG 性格検査の実施と分析	事前学習	YG 性格検査について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。						
		事後学習	検査結果をまとめてレポートとして提出する。						
第 3 回	・TEG の実施と分析	事前学習	TEG について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。						
		事後学習	検査結果をまとめてレポートとして提出する。						
第 4 回	・うつ尺度 (SDS)、不安尺度 (MAS) の実施と分析	事前学習	SDS、MAS について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。						
		事後学習	検査結果をまとめてレポートとして提出する。						
第 5 回	・WISC の実施	事前学習	WISC について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。						
		事後学習	検査結果をできるだけまとめておく。						
第 6 回	・WISC の分析	事前学習	検査結果をできるだけまとめておくとともに、疑問点を明確にする。						
		事後学習	検査結果をまとめてレポートとして提出する。						
第 7 回	・バウムテスト、風景構成法の実施と分析	事前学習	バウムテスト、風景構成法について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。						
		事後学習	検査結果をまとめてレポートとして提出する。						
第 8 回	・PF スタディの実施	事前学習	PF スタディについて調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。						
		事後学習	検査結果をできるだけまとめる。						

第9回	・PF スタディの分析と事例研究	事前学習	実施した PF スタディについてまとめ、疑問点を明確にする。
		事後学習	事例についてまとめてレポートとして提出する。
第10回	・SCT の実施と事例研究	事前学習	SCT について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第11回	・ロールシャッハ・テストの実施	事前学習	ロールシャッハ・テストについて調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第12回	・ロールシャッハ・テストの分析	事前学習	実施したロールシャッハ・テストについてできるだけ、分析表にまとめておく。
		事後学習	検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第13回	・箱庭療法の実施 (制作した箱庭の検討)	事前学習	箱庭療法について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。また、事前にひとりずつ箱庭を作成する。
		事後学習	箱庭作品の解釈を試み提出する。
第14回	・箱庭の事例研究	事前学習	事前に配布された事例を読んで、概要を理解し分からないところを明確にする。
		事後学習	箱庭作品の解釈を試みレポートを提出する。
第15回	・まとめ	事前学習	参考書を再読し問題意識を明確にする。
		事後学習	配布資料で興味をもった項目について、さらに調べ理解を深める。